

## 国連ミッション（UNMIN）に参加して

第1次軍事監視要員と交代して早3ヶ月が経ちました。ネパールではモンスーンといわれる季節が始まっています。2時間ほど強い雨と風が続いたと思ったら、太陽が顔をのぞかせ、さらに1時間後には、また雨が降り出すといった目まぐるしい気象の変化が繰り返されます。また、その雨の量たるや、はんぱなものではなく、道路はまるで急流のようになり、マオイストキャンプの中は、どこもかしこも泥まみれになります。そのため、私の所在するマオイストキャンプでは、落雷と強風により、マオイスト兵士達の兵舎に倒木が直撃して、8人が死傷するという痛ましい事件もあったほどです。このような厳しい気象条件下ではありますが、現在、ネパールでの仕事や生活には徐々に慣れつつあります。

今回、自衛官の身分でありながら、国際平和協力隊員として、国連を舞台とした国際貢献の現場で初めて仕事をする機会を得ました。ネパール人はもちろんのこと、各国の軍人、国際機関の人々など、様々な人と接する機会があります。その中で、気付いたことは、外国人と調整したり、交渉したりするときには、こちらの意志を積極的にアピールするとともに、日本人らしい誠心誠意努力する姿を見せることが重要だということです。日本人の仕事に対する、勤勉さ、緻密さは、海外に出て、初めて素晴らしいものと気付かされます。そして、それは他国の人々にとっても同様のようで、日本人であるからこそ、信頼してこの仕事を任せられる、といった雰囲気を生むことになります。日本での仕事と同様のことを、国連という場で行うことによって、周りからの高い評価が得られ、より充実した仕事をする事ができる、と肌で感じました。

また、私はこの任務に就くまでは、国連というものについて、あまり知識を持っていませんでしたが、スタッフとして働いてみて、国際社会における、その役割の重要性を認識することができました。他国の人々と顔を付き合わせて、様々な議論をする、そしてお互いの文化や風習を学び、それを各国に持ち帰り、他国に対する理解と尊重の重要性について再認識する。このような場を提供する意味でも、国連は重要なのではないのでしょうか。一方、それと同時に、海外に来て、初めて、日本製の各種製品の信頼性、提供される各種公共サービスの素晴らしさが実感できました。日本人は内にこもるのではなく、もっと自分の国に自信と誇りを持って良いと思います。そして、その素晴らしさを国際貢献という場を通じて、海外に発信していくべきなのでしょう。

最後に、現在、ネパールでは新しい国を作ろうという期待感と政治状況の不透明さからくる不安感が一緒になったような複雑な状況です。しかし、日本人同様、ネパール人は多様な文化を受け入れる柔軟性や、他を尊重し、自己の主張を抑える謙虚な一面を持っており、ネパールの人々には、底知れぬ力があると感じます。彼らはきっと自らの力で国を平和に導き、将来の発展を成し遂げるでしょう。そんな彼らの平和構築への道に少しでもお手伝いできれば、自衛官として、このうえない喜びです。

東部セクター 酒井 1 尉



各国の軍事監視要員及び Maoist Army 師団長と（左端が酒井 1 尉）